

# 「ココロ合せ♡チカラ合せ」 防災ネットワーク通信

あなたとご家族の生命を守る知見を備えましょう

向日葵はわが街のシンボル



2023 (令和5) 年 9 月 1 日 / 第69号

私ども防犯防災部は風早北部地域住民目線で柏市防災行政のチェック役に徹します。  
市長への提言を通じ柏市防災の改革・改善を目指します。

風早北部地域ふるさと協議会

いざという時に

## 市の防災行政(公助)に頼らない

その①

# 住民自治・自共助強化が必要です

今年9月1日は関東大震災から1世紀。柏市は今年の防災の日（関東大震災発災の日）と同じ月の30日土曜日※に防災活動や訓練の実施を呼びかけ、市内全域での市民参加型防災訓練が行われる模様です。

※7月27日の当会第1回防災活動意見交換会席上での防災安全課からの報告より

一方で、こうした柏市の防災行政に対し、私ども風早北部地域ふるさと協議会防犯防災部からは、年々変化する自然災害を前に

- ✓ 市の防災活動内容には毎年変化が足りない
- ✓ 行政パフォーマンス実施のスピード感に欠ける
- ✓ 市の執行内容には力量不足や物足りなさが拭えない

ここが弱いです  
市の防災行政



との根本的問題が解消されていないことを指摘します。これらの課題についての詳しい指摘は後日（柏市長への要望事項に関する案内において）詳しく触れて参ります。

今回は、当地域が目指す防災訓練につきご案内します。既に既報で簡単に説明している内容ですが、改めて住民の皆さんに紹介しますので、是非参考にしてください（本号と次号〈第70号〉でご案内します）。

## 災害時に大きな怪我をしない行動をとりましょう

風早北部地域を含む旧沼南町には、災害時の救急医療拠点になる総合医院（大規模医療機関）がありません。一方大規模災害時にはこうした施設に、市内の多くの医師や看護師が招集される一定のルールが出来上がっています。要するに、大規模災害時にこの地域内に最悪の場合、医師や看護師が誰もいなくなる事態が起こり得ます。運悪く大怪我をしてしまうと、治療が間に合わず、助かる命が助からない事態につながります。



柏市が現在進める風早北部地域内への緊急医療施設の整備が現実味を呈する段階にはまだなく、むしろ実現性が極めて乏しいとの住民意見もあります【巻末記述を参照】。要するに、災害時に大怪我さえしなければ、怪我人を出さなければ、この災害時の医療施設や域内の医師・看護師不足の問題が解決します。

当風早北部地域では、この課題を克服するためには、シェイクアウト訓練、すなわち、大きな地震発生時に自分の身の安全を最優先で考える訓練の実施を強く住民に方々には期待します。今の市の対応を観る限りでは、明るい未来の市民生活が期待できそうにないためです。

具体的な訓練の方法は至ってシンプルで、だれにでも簡単に行動に移せます。災害発生時間を予め定め、地域内でのシェイクアウト訓練実施を目指しましょう。



## シェイクアウト訓練を町内でやってみよう！

- ステップ① 〇月●日午前▽時に震度6の地震が発生したとの想定で
  - ステップ② まずは安全な場所に身を置く（低姿勢で頭を守る動作をとる）
  - ステップ③ 揺れが収まるのをひたすら待つ
  - ステップ④ 揺れが収まったら火／ガスの元を点検、避難路を確保する
  - ステップ⑤ 自分や家族の安否を確かめ、それを外部の住民に伝える
- とにかく、上記の行程で決して大きなけがを負わないことが大切です。

\* \* \* \* \*

## 市が将来的に進める当地域内での「災害臨時医療施設の設置」は実現が困難と観られます

現在柏市が、セブンパークアリオ柏施設・敷地を対象に検討をすすめる災害時医療施設の設置に関し、その実現が必ずしも容易でないことを指摘される地元住民は少なくありません。対象地である施設経営責任者の内情やその他の関係業界の独自の事情を察知する関係者からの意見として、その内容を踏まえると、実際の災害時に医療機関として有効に機能はし難いと考えます。臨時医療施設の設置よりも先ずは、大きな怪我人を出さない取組みに市全体で舵を切るべきと考えます。